

FMU 男女共同参画通信

第20号 March 2019
福島県立医科大学男女共同参画支援室

日に日に寒さも和らぎ、春の訪れを感じられるようになりました。本支援室では、本年度より改定された「男女共同参画行動計画」に基づき様々な取組を行って参りました。来年度も更なる男女共同参画の推進に取り組んで参りますので、引き続きご支援とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

H30年度 FMU キャリアサポート交流会—未来の“私”を考えよう—を開催しました

1月25日(金)に、学生を交えての交流会「FMU キャリアサポート交流会—未来の“私”を考えよう—」を開催致しました。ご発表として、法務省福島刑務支所医務課長 山口 晶子 先生に「矯正医療と女性医師」と題しお話をいただきました。ご講演では本学医学部消化器内科学講座講師 片倉 響子 先生より「厚生労働省医系技官を経験して」、本学附属病院看護部災害医療・高度救命救急センター看護技師 荒木 梨恵 様より「キャリアを考える～フライトナースのやりがい～」についてお話をいただきました。



体験談を交えたお話は大変参考になり、これから医師や看護師としての未来像を考える上で大変有意義な会となりました。

参加者からは「自分のキャリアを形成していく中で、広い視野・視点を持つことの大切さを感じました」「医師といっても大学や病院だけでなく、国の医療にも携われることを知れてよかった」「講師の先生方もみなさん悩みながらも計画的に夢ややってみたいことを実現されており、私も励まされたような気になりました」等の声が寄せられました。講演会終了後は、交流会も開催され親睦を深めました。

H30年度第10回 FMU スキルアップセミナーを開催しました

2月5日(火)に、研究デザインについて学ぶ「第10回 FMU スキルアップセミナー」を開催しました。「臨床医を元気づける臨床疫学研究：大学院生が日経メディカルに取材されるまでに続けた6つの習慣」と題して、本学附属病院臨床研究教育推進部 部長兼准教授 栗田宜明先生にご講演いただきました。参加者からは「今後論文を作成する上でとても役立ちました」「再度自分の研究をふり返りこれからの研究発表に生かそうと思いました」「忙しい中でも愚直に継続することを忘れずにがんばろうと思いました」などの声が寄せられました。



12月・2月「FMUカフェ」を開催しました

12月7日(金)「海外生活を通して獲得する新たな視点」と題し、医学部附属生体情報伝達研究所 生体機能研究部門 講師 加藤 成樹 先生にお話をいただきました。

加藤先生のご留学に関する様々なエピソードやお写真をご紹介いただき、海外と日本の文化の違い、日本の良さや改善点など、多くのことを学ぶことが出来ました。質疑応答の時間では、参加者から多くのご質問や感想をいただき、交流を深めました。



アンケートでは「素晴らしかった。また聞きたい」「具体的な話をたくさん教えて頂き有意義なセミナーでした」等の感想が寄せられました。

2月19日(火)「医療従事者におけるワークライフバランスを再考する」と題し、救急医療学講座 助教 大野 雄康 先生にお話をいただきました。本学にて実施した「男女共同参画に関するアンケート」の結果とともに、研究者、医療従事者におけるワークライフバランスの最新の研究動向を踏まえお話をいただきました。

アンケートでは「具体的に数値で示してもらったことで、大学のWLBの実態がわかった」「WLBの難しさは日頃から感じていますが、自分の意識、組織の意識も大切かと思いました」等の感想が寄せられました。





10月から2月にかけて、女性医師支援の取組の一環として、主に女性医師に向けた当室支援事業のご説明を行いました。今年度は、臨床系講座21か所に室長が直接お伺いし、育児サポート助成事業や研究支援員制度、女性休養室などについてのご紹介を行いました。実施に際しご理解とご協力をいただきありがとうございました。

H30年度 FMU 成果報告会、FMU カフェ in 会津を開催しました



男女共同参画支援室の取組の一つとして、ライフイベント（出産・育児・介護・看護等）により研究が困難な教員に対して研究支援員を配置しており、今年度支援を受けた教員に研究の概要をお話いただく「FMU 成果報告会」を開催しました。今年度は、上半期と下半期合わせて14名の教員の方に研究支援を行い、本学で支援を受けた教員の方々にご発表いただきました。

また、会津医療センターでも支援を受けた教員の方々にご発表いただいた他、FMU カフェ in 会津として、会津医療センター附属病院患者支援センター看護師長 大島光様に「ワークライフバランスの看護部の取り組み」と題し、お話いただきました。参加者からは「看護師さんの取り組み内容を知ることが出来てよかったです」などの感想が寄せられました。



〈支援を受けられた教員からの感想〉

基礎病理学講座 助教 東 淳子 先生

研究支援制度による実験補助の支援のおかげで、一日にできる実験量が増えました。また、子供の病気、授業・実習、論文の査読や研究費申請の締め切りがあっても、実験が遅滞・中断することなく、着実に成果が出ています。

生体機能研究部門 助教 西澤 佳代 先生

妊娠中から育児に奮闘の現在までの2年半、研究支援をいただいております。実験を円滑かつ確実に継続して遂行でき、大変助かっております。支援員さんのサポートは研究の発展への大きな力です。



「妊娠・出産・育児休業・介護休業等に関するハラスメント」をご存じですか？ <その2>

このハラスメントには以下の2つの型があります。

(1) 制度の利用への嫌がらせ型

- ① 解雇や不利益な取り扱いを示唆するもの
例「休みを取るなら辞めて貰う」「昇任できないと思え」
- ② 制度の請求・利用を阻害するもの
例「男のくせに育児休業を取るなんてあり得ない」
- ③ 制度を利用したことに嫌がらせをするもの
例「短時間勤務をするなんて周りに迷惑だ」

(2) 状態への嫌がらせ型

- ① 妊娠したことに対し不利益な取り扱いを示唆するもの
例「他の人を雇うので早めに辞めてもらうしかない」
- ② 妊娠したことに嫌がらせをするもの
例「妊娠するといつ休むかわからないから仕事は任せられない」「妊娠は忙しい時期を避けるべきだった」

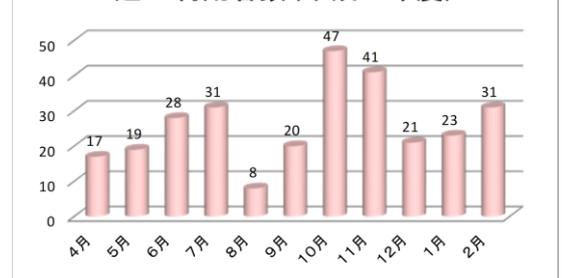
(厚生労働省「職場におけるハラスメント対策マニュアル」より一部抜粋)

文責：ハラスメント対策委員会事務局（総務課大学人事係）薄

★ハラスメント相談メールボックス s-soudan@fmu.ac.jp★

病児病後児保育所「すくすく」

延べ利用者数(平成30年度)



教職員及び学生のお子さまで病気又は病気の回復期にあり、集団行動が困難な期間、一時的にお預かりしております。詳しくは、男女共同参画支援室のHPをご覧ください。
<https://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/effort/#sukusuku>

福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、仕事と生活の調和を実現することを目指しています。

福島県立医科大学 男女共同参画支援室

E-mail: gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel: 024-547-1657 (内線: 2807) / HP: <http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>

男女共同参画支援室長 小宮 ひろみ